

目指す学校像	子ども・保護者・地域の期待に応え、信頼される学校
--------	--------------------------

重点目標	1 「真の学力」の育成をめざす教育の充実 2 児童が安全で安心して学べる教育環境の整備 3 保護者、地域の願いを踏まえた学校運営と積極的な情報発信 4 教職員研修の実施
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
 方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価			
年度目標				年度評価			実施日令和5年2月14日			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均、市平均と比べて良好な結果である。 ○学校評価において、「学習内容の理解」に関する質問項目に肯定的な回答をした児童の割合は高く、分からないことについて自主的に教員に質問するなど学習意欲が高い。 <課題> ○授業における1人1端末の積極的かつ効果的な活用についての研究、実践を積み重ねる。 ○持続可能な教科担任制の在り方について、検証を続ける必要がある。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・「真の学力」の育成に向けた指導方法及び指導体制の確立	①全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく授業改善を行う。 ②管理職による全教員を対象にした授業参観（ICTの活用等）を通して授業改善を行う。	①全国学力・学習状況調査の平均正答率が昨年度から維持することができたか。(R4:国語74%、算数68%) ②「よい授業」アンケートの因子④(アクティブ・ラーニング)の平均値が向上したか。(R4.12月:17.6)	①研究紀要として研究の成果と課題をまとめることができたか。 ②学校評価における「学習内容の理解」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R4:児童72%、保護者40%)					
2	<現状> ○「いじめ防止に向けた取組やいじめ等に対して対応を行っている。」の項目で91%、「困ったことや心配なことを相談できる体制になっている。」の項目で96%と保護者の信頼を得られている。 ○安全点検は計画通り実施できている。安心することなく着実に継続する必要がある。 <課題> ○児童の問題行動、いじめ、不登校等に対し、より効果的にかかわる必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全・安心な環境づくりと安全に関する指導の充実	①生徒指導・教育相談部会の行い方(頻度、協議内容等)を見直し、問題行動、いじめ、不登校等に対し、より効果的に関わることのできる体制を作る。 ②サンキッズ相談日(教育相談の日)を定期的実施する。必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、適切な支援方法を探る。	①学校評価における「いじめ防止」の項目で『そう思う』の割合を維持できたか。(R4:保護者28.3%) ②学校評価における「相談体制」の項目で『そう思う』の割合を維持できたか。(R4:児童55%、保護者42%) ③サンキッズ相談での面談内容が、管理職及び関係職員に確実に共有されたか。	①②学校評価における「安全への配慮」の『そう思う』保護者の回答率が向上したか。(R4:47%)					
3	<現状> ○「あいさつができること」は学校・保護者・地域共通の願いである。児童に定着しつつあるあいさつを習慣化するまで、あと一歩である。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の視点から、様々な工夫をしながら平常時に近い形で学校行事等を実施することができた。 <課題> ○学校の教育活動や児童の様子などを参観する機会を設けるとともに学校ホームページ等を活用して双方向的なコミュニケーションが取れるような工夫を検討する。	・目指す児童の姿の地域全体での共有 ・学校行事の公開や参観の機会の充実	①学校ホームページのリニューアルに際し、内容や使い方を見直し、発信する情報を増やす。 ②あいさつを習慣化するため、児童によるあいさつ運動(生徒会との合同も含む)、教職員による登校時の立哨指導等を行う。	①学校評価における「家庭・地域等との連携」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R4:47%) ②学校評価における「あいさつ」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R4:児童35%、保護者等63%)	①学校行事等の公開については、感染症対策を講じつつ公開の機会を拡大し、児童の活動の様子をより多く見ていただけるようにする。	①学校評価における「学校行事」の『そう思う』の回答率が昨年度より向上したか。(R4:51%)				
4	<現状> ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストを中心に研修及び情報共有を重ねており、全ての教員が、ICTを積極的に活用した授業を日常的に実施している。 ○市教委から「小・中一貫教育」の研究委嘱を受け、今年度が発表の年となる。大谷場中学校と連携し、よりよい教科担任制の在り方について模索している。 <課題> ○次年度以降の本校の教育活動に生かすことができる研究、研修を推進していく。	・資質向上に向けた教職員研修の充実	①エバンジェリストを核として、教職員の情報機器活用能力を向上する研修を実施する。 ②小・中合同で授業力向上に係る校内研修や相互に参観する授業公開期間を設け実施する。	①エバンジェリストを中心に情報機器活用研修会を年4回以上実施したか。 ②「小・中一貫教育」の充実に向けた小・中合同研修会が年3回以上実施されたか。						